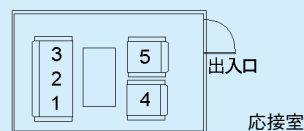


ビジネスマナーについて

上座下座は応接室だけに限らず、色んな場面でも出てきます。しっかり上座下座を確認しておくとなシチュエーションでも安心ですね。部屋に通されて考えるより、どんなタイプの部屋でも応用が利くようにしておきましょう。お客様を応接室に通す時、会議室でお茶を出す時、タクシーや電車、飛行機に乗るとき、和室に通されたら？円卓だったら？お客様とエレベータに乗る時は？普段より身につけて失礼のない様にしましょう。

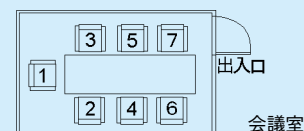
【応接室の場合】

入口から遠い奥の席がもっとも上になります。1人掛けの椅子は立派に見えますが、実は大きなソファの方が上になります。ただし、奥に窓があり、景色がすばらしい部屋の場合はたとえ入口が近くても景色を楽しんでもらうために、景色が見えるほうが上になります。



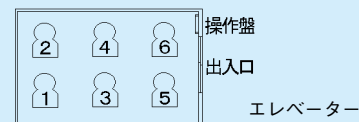
【会議室の場合】

もっとも奥の議長席から、出口に向かった順番。入口側が下座になります



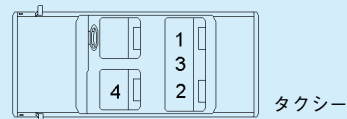
【エレベータの場合】

入口から向かって左奥から右奥へと順番に。手前は操作ボタンのあるほうが一番の下座です。ボタンの位置が左右どちらでも、奥にある上座の位置は変わりません。



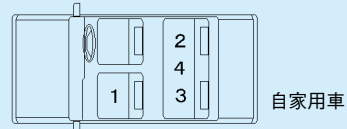
【タクシー・運転手付社用車の場合】

後部座席の運転手の後ろが安全とされていて最も上になります。次いで助手席の後ろ、中央席の順になり、助手席には最も目下の人が座り、支払いをすするようにします。



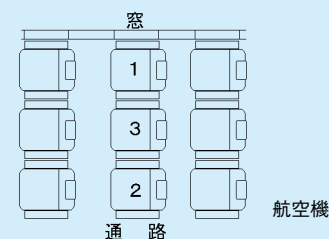
【自家用車の場合】

タクシーとは違い、助手席がもっとも上になり後部座席はタクシーと同じ順番となります。



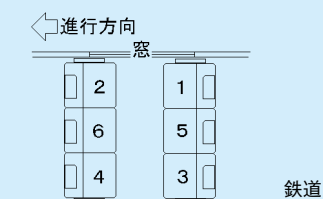
【航空機の場合】

窓側が上座で、通路側、中央の順に下座になります。



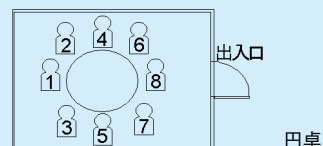
【鉄道の場合】

進行方向を向いて座る位置の窓側が上です。通路側は下座になります。ただし6人掛けの座席の場合は進行方向にある中央席が一番下座となります。



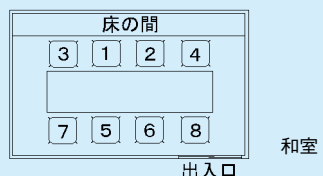
【円卓の場合】

部屋の入口からもっとも遠いところが上座になります。次いで左右へと順番に並び、最も入口に近い方が下座になります。



【和室の場合】

料亭などで和室に通されたら、床の間に近い奥の席が上座です。床の間がなければ、入口からもっとも遠いところが上座となります。ただし乗り物の席とは違い、この場合は中央席が上座となります。



上座・下座はもともと何？

部屋の中で目上の人や客人が座る席を上座、目下の人やもてなす側が座る席を下座といいます。特にビジネスの世界ではこの席次が重んじられます。「かみざ」「しもざ」又は「じょうざ」「げざ」とも呼ばれます。

では、なぜ床の間の近くが上座と呼ばれるようになったのでしょうか。それは床の間の歴史をみるとわかります。

床の間は書院造りの特徴です。書院造りとは、室町時代にそれまでの寝殿造りにとって代わり普及しました。寺の僧侶が経典などを勉強する部屋を原型とし、それが武士の家に取り入れられました。床の間は床より一段高くされ、そこには三具足〔みつぐそく〕（仏前に供える香炉・花瓶〔けびょう〕・燭台）を置き、仏画を掛けました。

床の間は仏画をかける神聖な場所であったため、部屋の一番奥の出入り口から遠い落ち着いた場所に造られました。その神聖で落ち着く場所に身分の高い大事な人に座ってもらうのは、自然な流れだといえるかもしれません。

今ではただ単に「快適な場所」を意味しておりますが、相手を思いやる気持ちには変わりはないのです。